2026 年 11 月 13 日

岡山県感染症週報 2026 年第 45 週（11 月 2 日 ～ 11 月 8 日）

岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026 年　第 45 週（ 11 / 2 ～ 11 / 8 ）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況（第 45 週届出分）

第 44 週　2 類感染症　結核　2 名（70 代　男 1、80 代　男 1）
3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　1 名（O146：30 代　男）
4 類感染症　日本紅斑熱　1 名（70 代　女）
5 類感染症　後天性免疫不全症候群　1 名（30 代　男）
侵襲性インフルエンザ菌感染症　1 名（40 代　男）
梅毒　2 名（20 代　女 1、30 代　男 1）

第 45 週　2 類感染症　結核　1 名（60 代　女）
4 類感染症　レジオネラ症　1 名（70 代　男）
5 類感染症　カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症　1 名（70 代　女）
急性脳炎　1 名（幼児　女）
侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（80 代　男）
梅毒　2 名（20 代　女 1、30 代　男 1）



■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

○インフルエンザは、県全体で 440 名（定点あたり 8.80 人）の報告がありました。
○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 27 名（定点あたり 0.54 人）の報告がありました。
○急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 3,210 名（定点あたり 64.20 人）の報告がありました。

---

1. インフルエンザは、県全体で 440 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 6.34 → 8.80 人）。岡山県は 9 月 28 日に**「インフルエンザ注意報」**を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『2026/27 年シーズン　インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中！』をご覧ください。
2. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 27 名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり 0.84 → 0.54 人）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報』をご覧ください。
3. 急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 3,210 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 53.50 → 64.20 人）。詳しくは、**「☆急性呼吸器感染症（ARI）情報」**および岡山県感染症情報センターホームページ『急性呼吸器感染症（ARI）情報』をご覧ください。
4. 梅毒は、2026 年第 45 週に 2 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 144 名となりました（2025 年の同時期：223 名）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『梅毒について』をご覧ください。

流行の推移

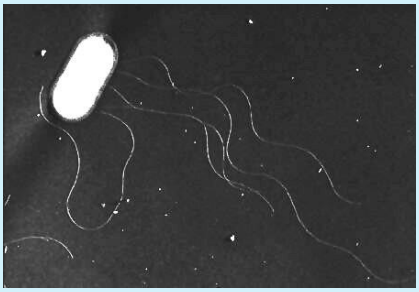
疾病名	定点あたり報告数		推移	疾病名	定点あたり報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	6.34	8.80	↗	突発性発しん	0.25	0.21	↘
COVID-19	0.84	0.54	↘	ヘルパンギーナ	0.64	0.46	↘
急性呼吸器感染症(ARI)	53.50	64.20	↗	流行性耳下腺炎	0.07	0.14	↗
RSウイルス感染症	0.57	0.89	↗	急性出血性結膜炎	0.17	0.00	↘
咽頭結膜熱	0.46	0.14	↘	流行性角結膜炎	0.25	0.25	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.54	2.04	↘	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	3.61	2.46	↘	無菌性髄膜炎	0.20	0.40	↗
水痘	0.29	0.11	↘	マイコプラズマ肺炎	0.60	0.80	↗
手足口病	0.36	0.14	↘	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.07	0.00	↘	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↘：減少　増加･減少：前週比10%以上の増減

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

◆◆◆ 腸管出血性大腸菌感染症◆◆◆

腸管出血性大腸菌感染症は、**ベロ毒素産生性の大腸菌(EHEC)**で汚染された食物などを経口摂取することによっておこる感染症です。また、糞口感染によるヒトからヒトへの二次感染もおこります。



腸管出血性大腸菌 O157:H7 の電子顕微鏡写真
(国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト)
を加工して作成。

＜症状＞

無症状のこともありますが、通常 3～5 日の潜伏期を経て、激しい腹痛、頻回の水様便の後に血便となります。さらに溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症などの重篤な合併症を発症し、死に至ることがあります。

＜予防対策＞

●食品は中心部までしっかり加熱しましょう

- 食肉の生食は避けましょう。(特に若齢者、高齢者および抵抗力が弱いハイリスクグループに対しては生肉又は加熱不十分な食肉を食べさせないようにしましょう。)
- 腸管出血性大腸菌は加熱により死滅します。したがって、**肉の中心部まで十分に加熱**(中心温度 75℃で 1 分間以上)することが重要です。

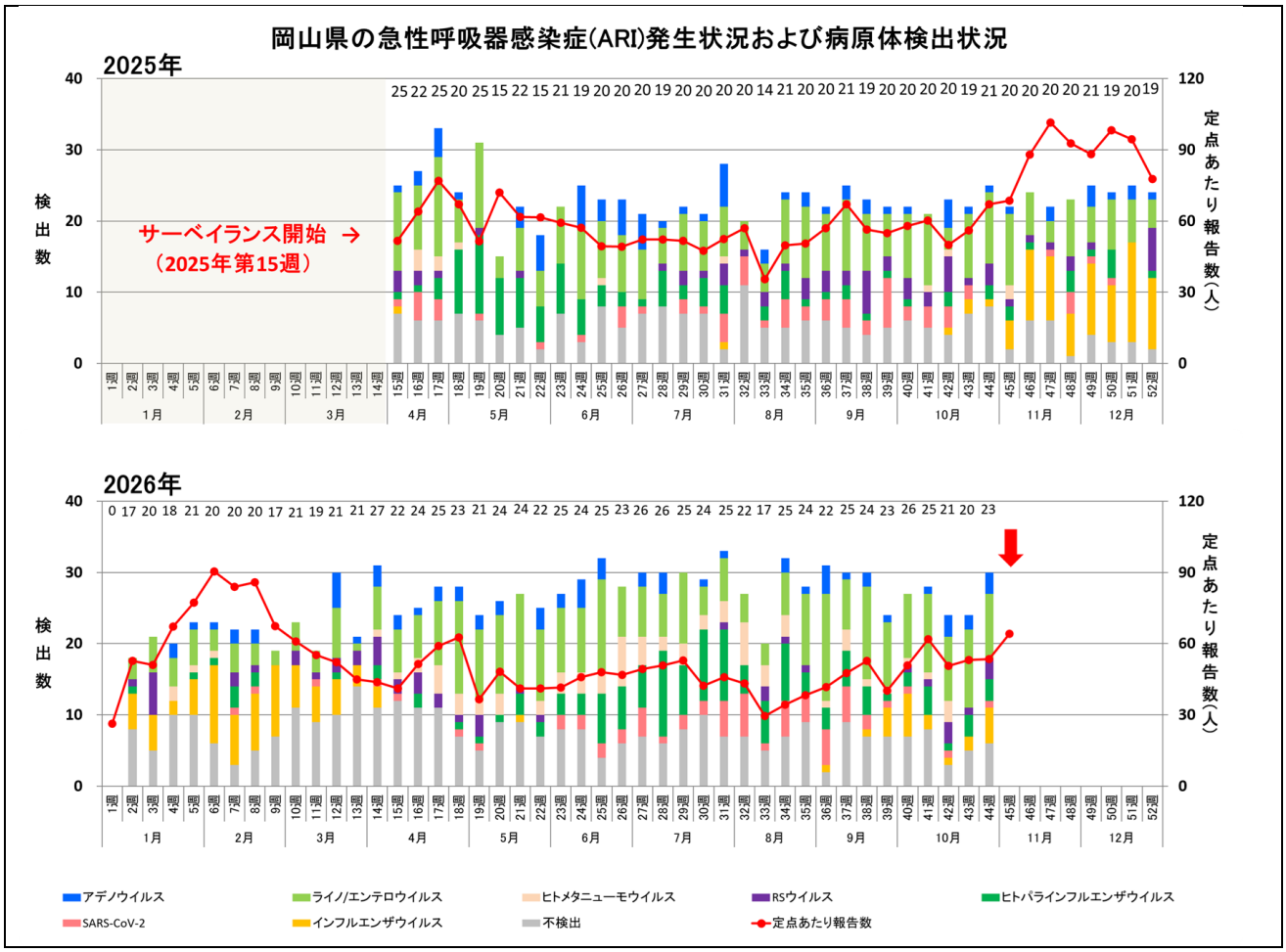
●二次感染を防ぎましょう

- トイレ後には石鹸と流水でよく手を洗いましょう。
- 焼肉をする際など、「生肉を扱うはし」と「食べるはし」は使い分けましょう。

腸管出血性大腸菌感染症(国立健康危機管理研究機構)
腸管出血性大腸菌Q&A(厚生労働省)
肉を安全に食べるためのポイント(政府広報オンライン)

☆急性呼吸器感染症（ARI）情報

1.　岡山県の流行状況（第 45 週（ 11 / 2 ～ 11 / 8 ））



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 3,210 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 53.50 → 64.20 人）。地域別では、備中地域（108.80 人）、岡山市（74.28 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

2026 年第 45 週に環境保健センターに搬入された検体はありませんでした。

2.　新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ 新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）

○全国の状況

→ SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）※、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがいます。

ダニは、春から秋（3 月～11 月）にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤（マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの）を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。



吸血後の
フタトゲチマダニ♀

※SFTS は SFTS ウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ 日本紅斑熱　（国立健康危機管理研究機構）

⇒ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A　（厚生労働省）

⇒ つつが虫病（国立健康危機管理研究機構）

⇒ マダニ対策、今できること　（国立健康危機管理研究機構）

国内での麻しんの報告数が増えています

2023 年以降「麻しん（はしか）」の世界的な流行が続いており、海外からの輸入リスクが高まっています。その影響で、国内の報告数も増加（前年同時期比 2.5 倍（2026 年 11 月 4 日時点））しており、引き続き注意が必要な状況です。

発生動向

・国内の患者は 10-30 代を中心にみられ、医療機関や学校、公共交通機関など、人が集まる場所での感染も確認されています。

・10-30 代の患者では、2 回のワクチン接種が済んでいない方や接種歴不明の方が半数以上を占めていました。

お願いしたいこと

・麻しんワクチンの 2 回接種が確認できない場合は、医療機関にご相談ください。

・麻しんの流行がみられる国や地域に渡航する方は、接種歴を確認し、2 回接種が確認できない場合は、渡航前の接種を検討ください。

・発熱、発しん、せき、鼻水、結膜充血など、麻しんが疑われる症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診し、渡航歴や接触歴があればお伝えください。

麻しん（はしか）（厚生労働省）

海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

海外へ渡航される方へ

海外から帰国された方へ



©岡山県「ももっち」

2026 年 11 月 13 日

インフルエンザ週報　2026 年 第 45 週（11 月 2 日 ～ 11 月 8 日）

岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です

岡山県の流行状況

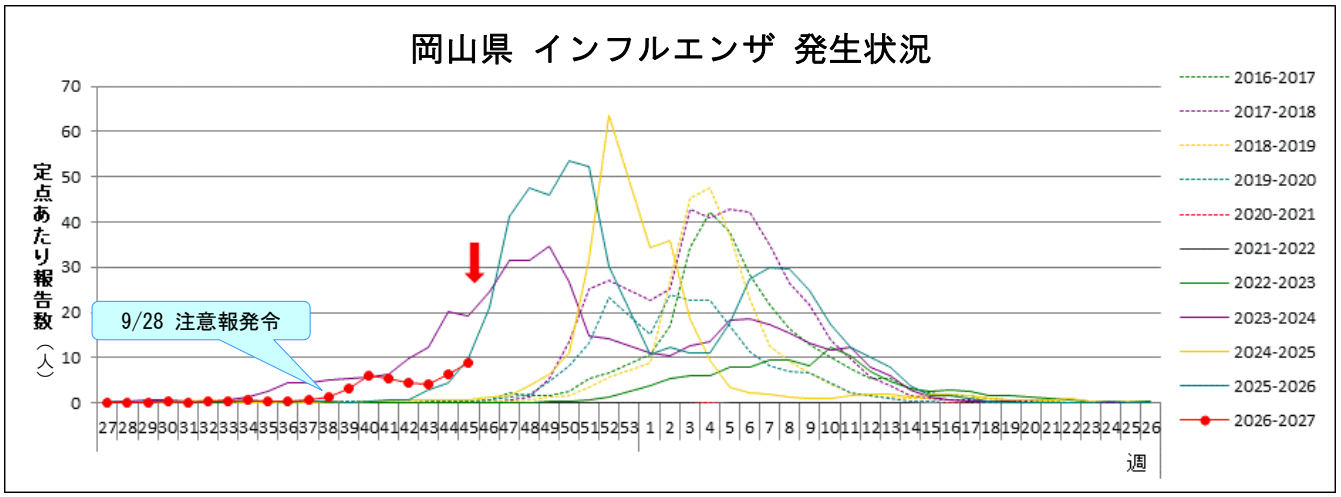
○インフルエンザは、県全体で 440 名（定点あたり 8.80 人）の報告がありました（50 定点医療機関報告）。

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、17 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者 7 名の報告がありました。

【第 46 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 20 施設でありました（11 月 9 日～11 日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

※ 2025 年第 15 週以降定点がインフルエンザ/COVID-19 定点（84 医療機関）から ARI 定点（50 医療機関）になりました。

インフルエンザは、県全体で 440 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 6.34 → 8.80 人）。

岡山県は 9 月 28 日に**「インフルエンザ注意報」**を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域（12.60 人）、岡山市（10.17 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

◆インフルエンザの流行拡大が懸念されます！感染に注意しましょう

【予防と対策】

〇基本的な感染防止対策

・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施

・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入れ換え

・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける

〇健康的な日常生活

・十分な休養、バランスのとれた食事

〇あらかじめの備え

・早めのインフルエンザワクチン接種

【発熱等の症状が出た時は】

〇早めに医療機関を受診する

〇周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！

〇水分を十分にとり、安静にして休養をとる

⇒　詳細は岡山県ホームページ『インフルエンザ対策について』をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況（人）		推移	地域名	発生状況（人）		推移
岡山県全体	**患 者 数**	**440**	↗	備　中	患 者 数	63	↗
	定点あたり	**8.80**			定点あたり	12.60	
岡山市	患 者 数	183	↗	備　北	患 者 数	33	↗
	定点あたり	10.17			定点あたり	8.25	
倉敷市	患 者 数	105	↗	真　庭	患 者 数	10	↑
	定点あたり	8.75			定点あたり	5.00	
備　前	患 者 数	21	↗	美　作	患 者 数	25	↗
	定点あたり	5.25			定点あたり	5.00	

【記号の説明】前週からの推移　↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↘：減少　↓：大幅な減少

大幅：前週比 100%以上の増減　　増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ

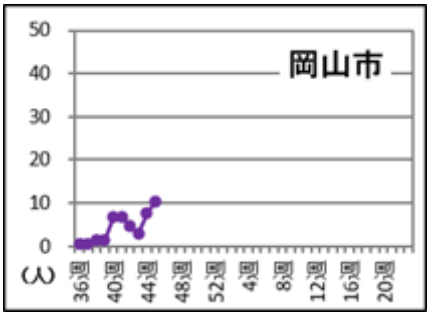


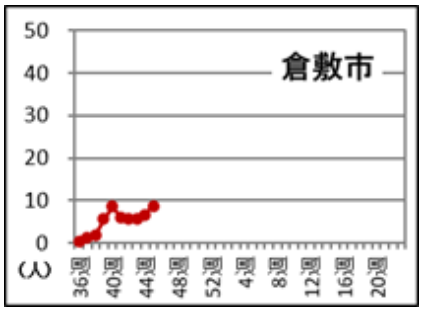
＜インフルエンザ発生レベル　基準＞

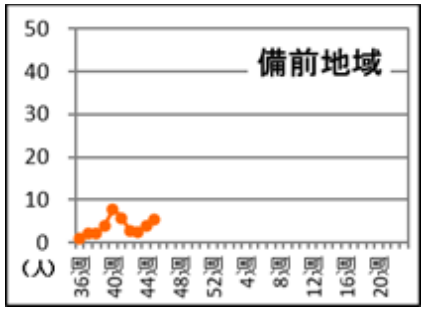
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

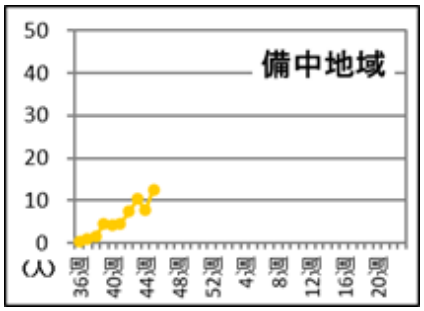
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 く 10 未満	0

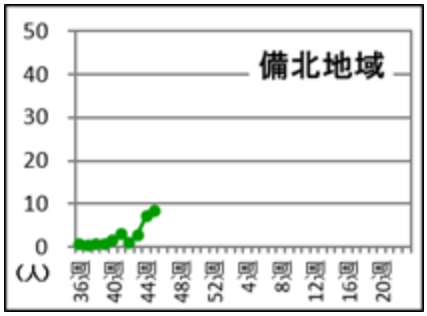
※数字は定点あたり報告数

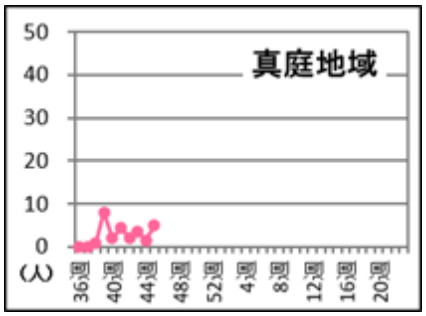


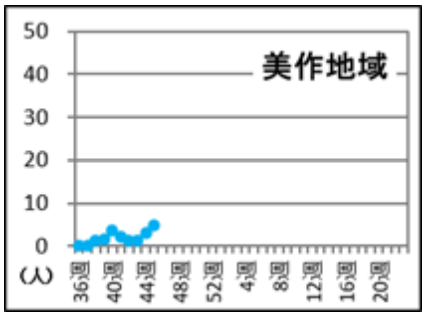


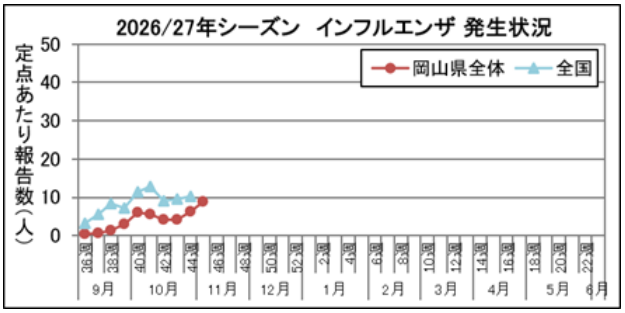










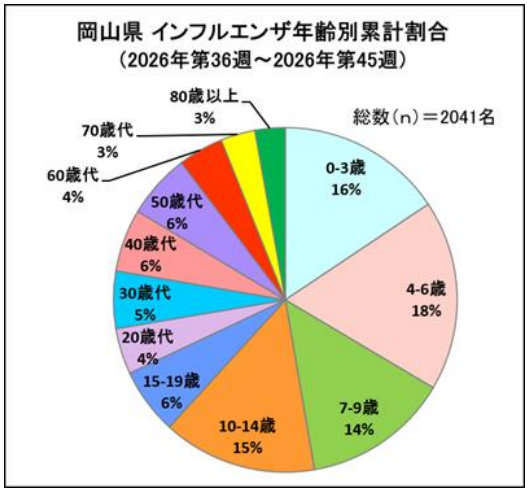


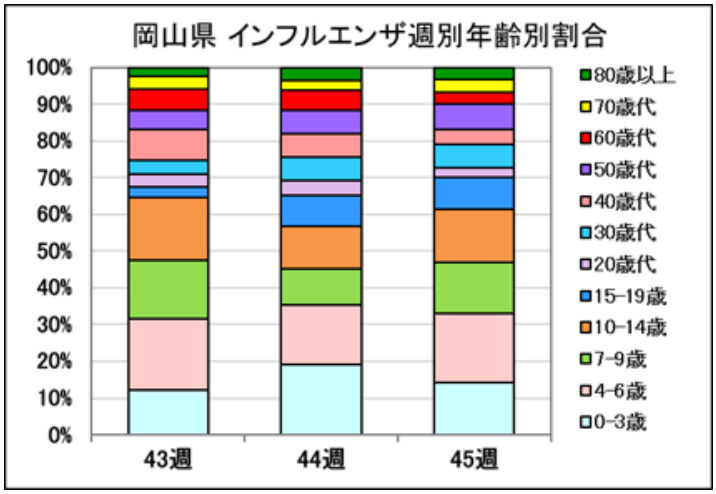
全国集計 2026 年第 44 週（10/26～11/1）速報値によると、全国の定点あたり報告数は、10.26 人となりました。

都道府県別では、愛媛県（27.89 人）、北海道（21.90 人）、岩手県（17.17 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。33 都道府県で前週の報告数から増加しました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）]

2. 年齢別発生状況



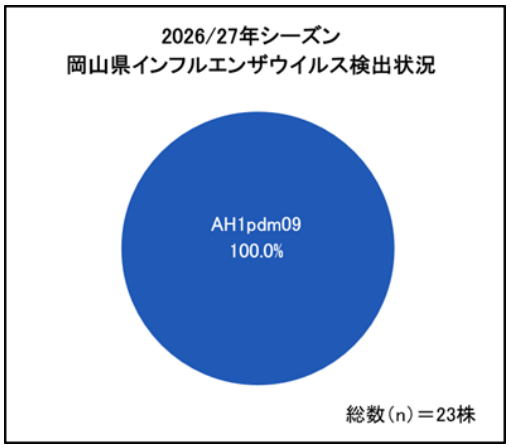


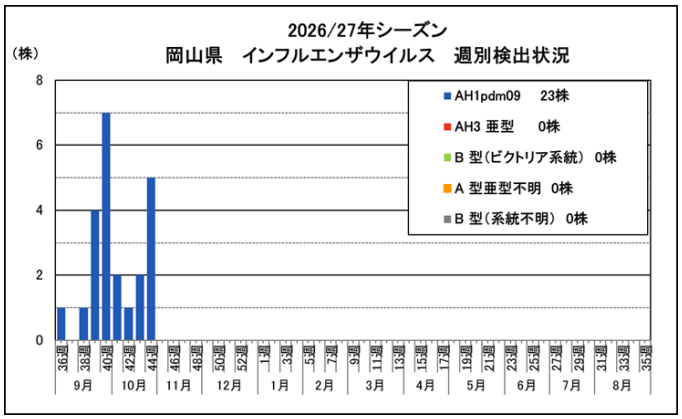
※定点医療機関は、小児科定点（28 医療機関）が内科定点（22 医療機関）に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。

3. インフルエンザウイルス検出状況

【岡山県】

今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 23 株で、すべて AH1pdm09 となっています。

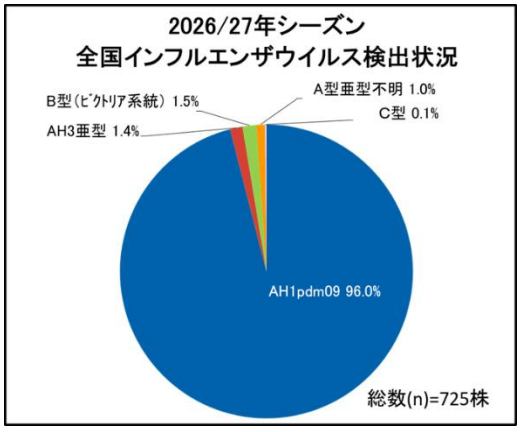


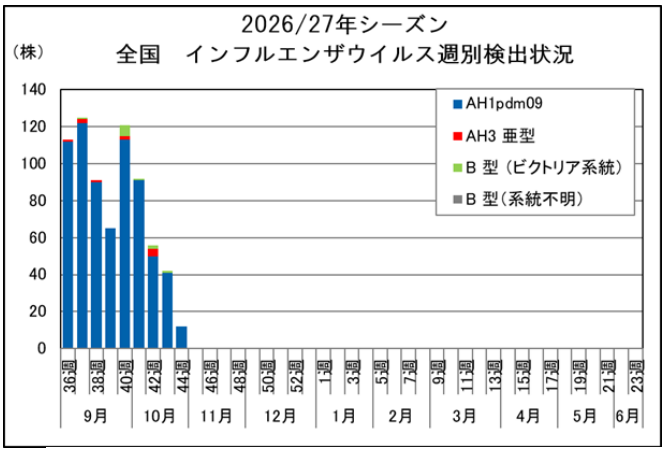


【全国】

今シーズン、これまでに検出されたインフルエンザウイルスは 725 株で、AH1pdm09 が 696 株、AH3 亜型が 10 株、B 型（ビクトリア系統）が 11 株、A 型亜型不明が 7 株、C 型が 1 株となっています（11 月 10 日現在）。

インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立健康危機管理研究機構）

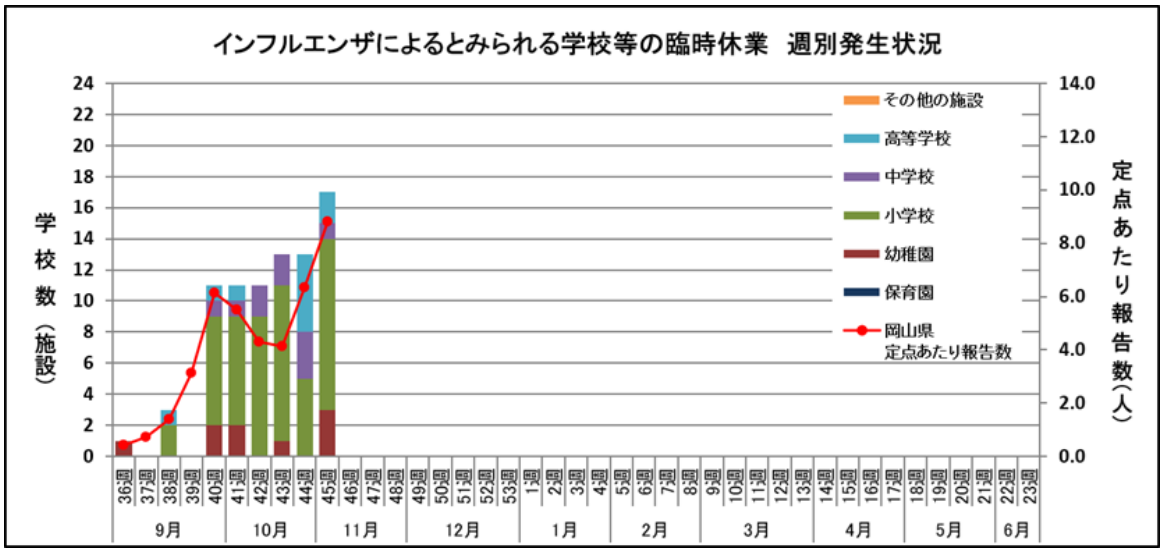




※集計が異なるため一部の型が報告されていません。

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、17 施設でありました。



臨時休業施設数の内訳

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
第 45 週	0	3	11	1	2	0	**17**
累計	0	9	51	10	10	0	**80**

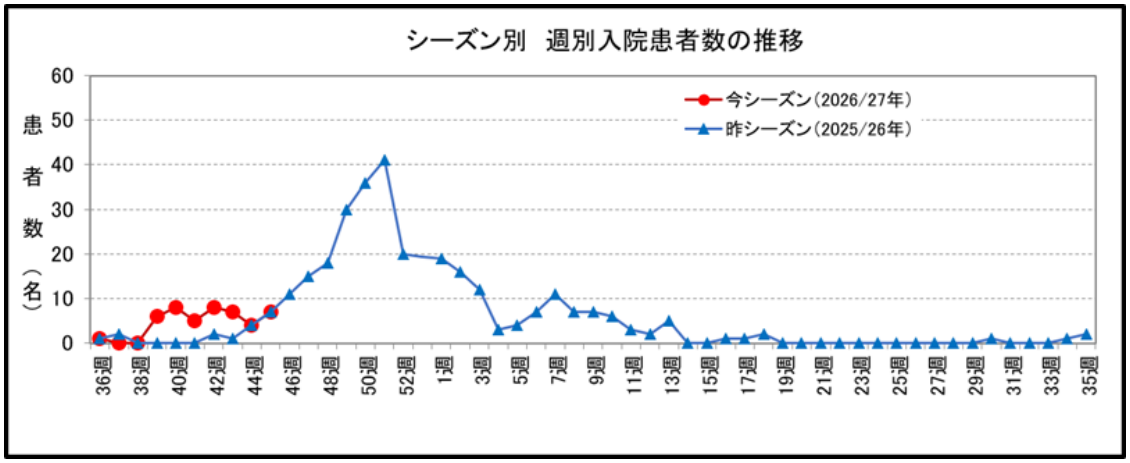
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→　（R8 年度シーズン）岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者 7 名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 45 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数		**2**	**2**						**1**	**1**	**1**		**7**
ICU 入室 ＊													
人工呼吸器の利用 ＊													
頭部 CT 検査(予定含)＊													
頭部 MRI 検査(予定含)＊			1										1
脳波検査 (予定含)＊													
いずれにも該当せず		2	1						1	1	1		6

＊ 重複あり

【2026 年 8 月 31 日（第 36 週）以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	**3**	**8**	**9**	**2**		**1**		**1**	**4**	**3**	**4**	**11**	**46**
ICU 入室 ＊		2	1										3
人工呼吸器の利用 ＊		1	1										2
頭部 CT 検査(予定含)＊								1	1		1	1	4
頭部 MRI 検査(予定含)＊			2					1				1	4
脳波検査 (予定含)＊		1						1					2
いずれにも該当せず	3	6	6	2		1			3	3	3	9	36

＊ 重複あり

令和８年度 急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関するQ&A（厚生労働省）
令和８年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策（厚生労働省）

保健所別報告患者数　2026年 第45週（定点把握）　（ 2026/11/02～2026/11/08 ）　2026年11月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	440	8.80	183	10.17	105	8.75	21	5.25	63	12.60	33	8.25	10	5.00	25	5.00
COVID-19	27	0.54	8	0.44	12	1.00	2	0.50	3	0.60	2	0.50	–	–	–	–
急性呼吸器感染症	3210	64.20	1337	74.28	707	58.92	206	51.50	544	108.80	194	48.50	67	33.50	155	31.00
RSウイルス感染症	25	0.89	11	1.10	12	1.71	–	–	2	0.67	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	4	0.14	2	0.20	1	0.14	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	2.04	34	3.40	12	1.71	2	1.00	6	2.00	–	–	2	2.00	1	0.33
感染性胃腸炎	69	2.46	31	3.10	12	1.71	4	2.00	7	2.33	4	2.00	–	–	11	3.67
水痘	3	0.11	2	0.20	–	–	–	–	1	0.33	–	–	–	–	–	–
手足口病	4	0.14	2	0.20	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2.00	–	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発しん	6	0.21	3	0.30	1	0.14	–	–	1	0.33	–	–	–	–	1	0.33
ヘルパンギーナ	13	0.46	4	0.40	5	0.71	–	–	1	0.33	2	1.00	–	–	1	0.33
流行性耳下腺炎	4	0.14	3	0.30	–	–	–	–	1	0.33	–	–	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	–	–	–	–					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	2	0.40	–	–	2	2.00					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	–	–	4	4.00					–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–

（ – ： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数　2026年 第45週（発生レベル設定疾患）　（ 2026/11/02～2026/11/08 ）　2026年11月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	440	8.80	183	10.17	105	8.75	21	5.25	63	12.60	33	8.25	10	5.00	25	5.00
咽頭結膜熱	4	0.14	2	0.20	1	0.14	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	2.04	34	3.40	12	1.71	2	1.00	6	2.00	–	–	2	2.00	1	0.33
感染性胃腸炎	69	2.46	31	3.10	12	1.71	4	2.00	7	2.33	4	2.00	–	–	11	3.67
水痘	3	0.11	2	0.20	–	–	–	–	1	0.33	–	–	–	–	–	–
手足口病	4	0.14	2	0.20	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2.00	–	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	13	0.46	4	0.40	5	0.71	–	–	1	0.33	2	1.00	–	–	1	0.33
流行性耳下腺炎	4	0.14	3	0.30	–	–	–	–	1	0.33	–	–	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	–	–	–	–					–	–

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

（－：　0　or　0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2026年　第45週　 2026/11/02～2026/11/08 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	440	2	9	19	13	20	26	26	30	26	13	22	64	39	11	28	18	30	14	16	14
COVID-19	27	–	1	–	–	1	–	–	–	–	1	–	4	4	3	3	5	3	–	–	2

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	3210	225	1228	720	317	132	102	109	99	81	68	66	63

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	25	3	5	10	3	2	1	–	1	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	4	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	–	1	2	4	5	6	10	3	9	6	2	9	–	–
感染性胃腸炎	69	1	7	15	7	6	4	2	3	1	6	2	11	2	2
水痘	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	1	–
手足口病	4	–	–	1	2	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発しん	6	–	–	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	13	1	1	6	3	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	4	–	–	–	1	–	–	1	1	1	–	–	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	2	–	–	–

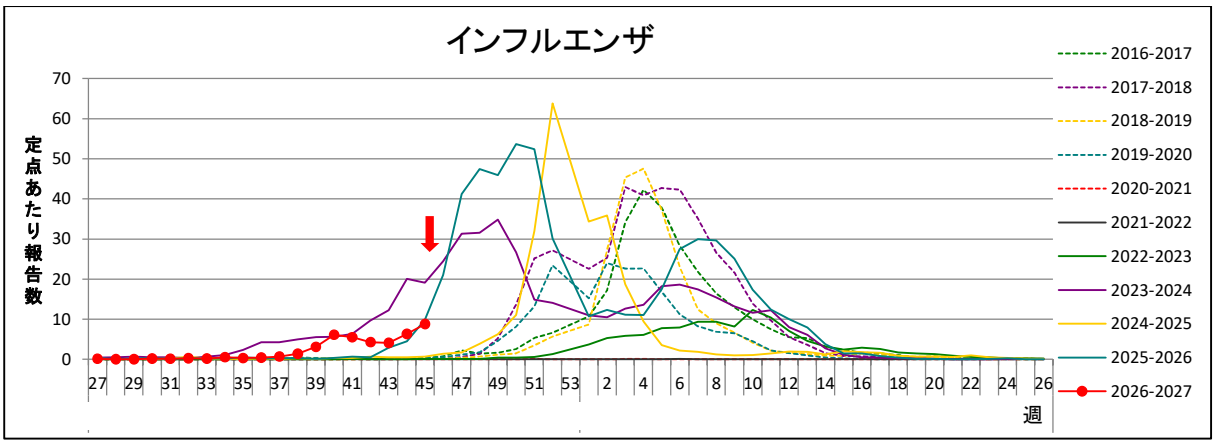
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1
マイコプラズマ肺炎	4	–	1	2	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

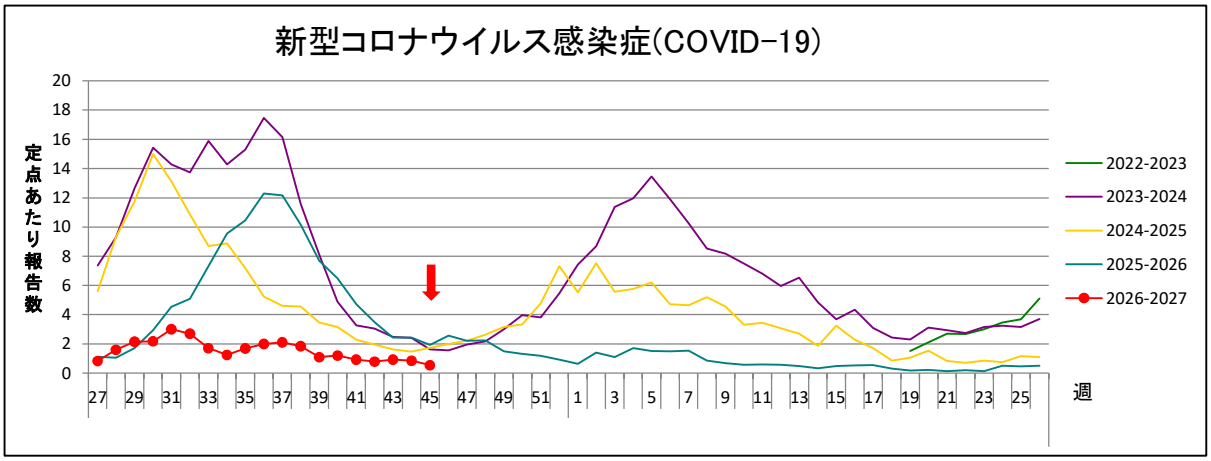
（－： 0 ）

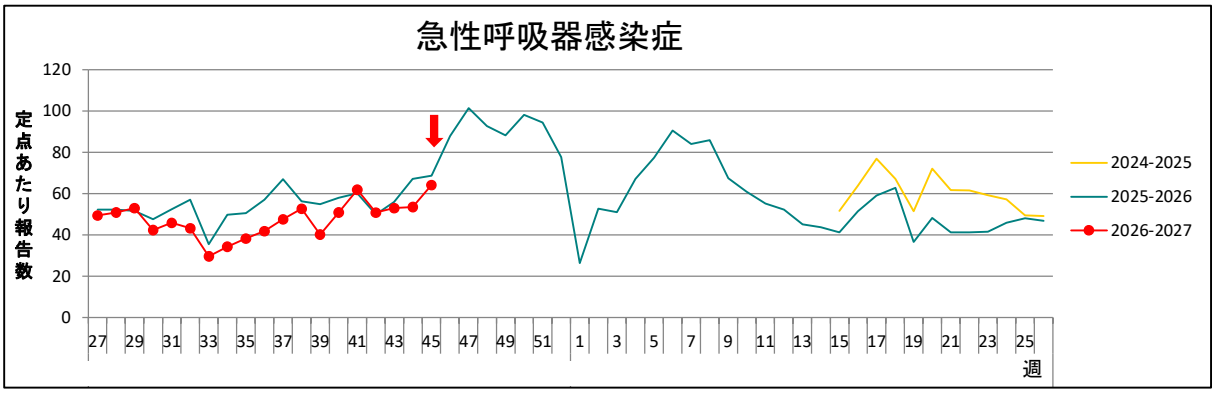
全数把握 感染症患者発生状況

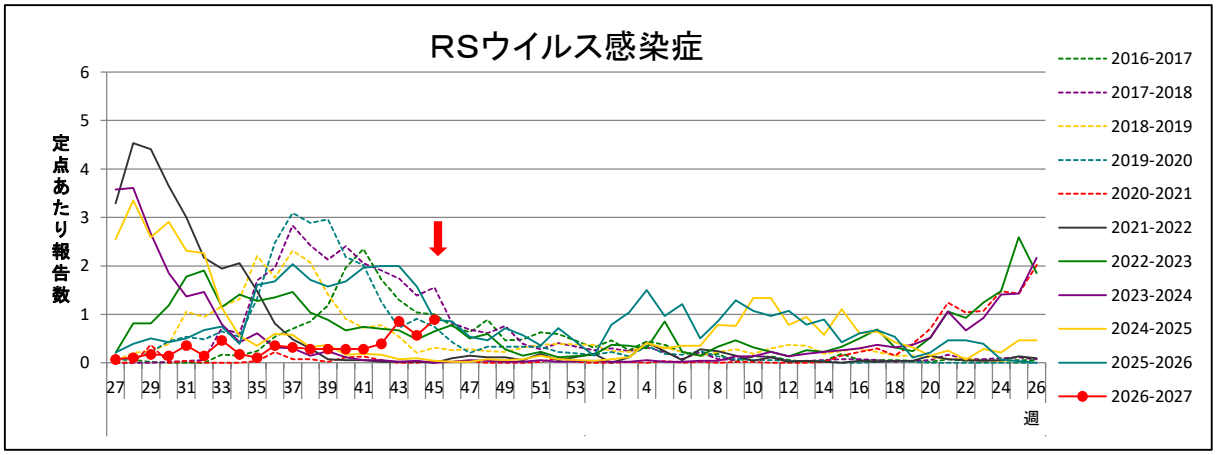
2026 年　第 45 週

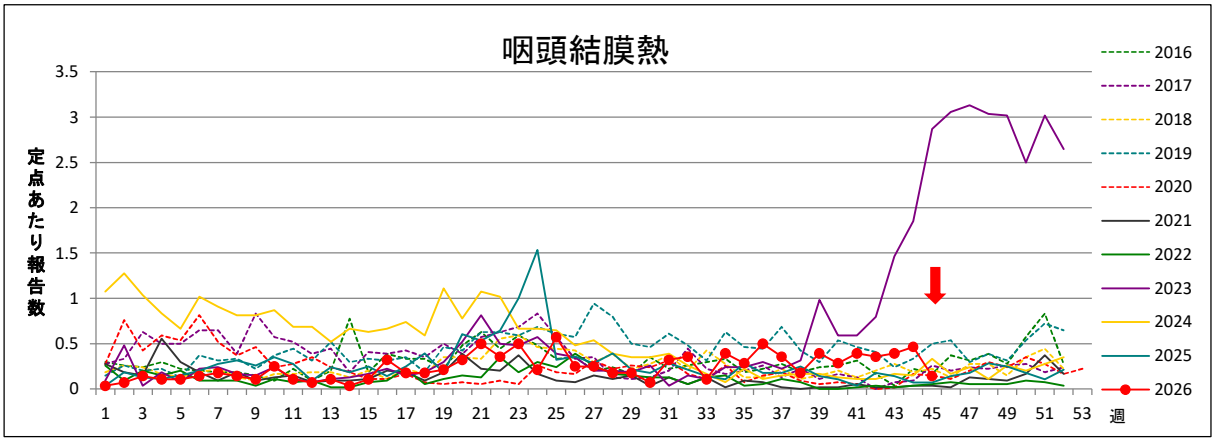
分類	疾病名	2026 今週	2026 累計	2025 昨年	疾病名	2026 今週	2026 累計	2025 昨年	疾病名	2026 今週	2026 累計	2025 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	1	201	237	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	–	97	95
	腸チフス	–	2	–	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	4	4	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	2	2
	エキノコックス症	–	–	–	エムポックス	–	1	–	黄熱	–	–	–
	オウム病	–	–	–	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–
	キャサヌル森林病	–	–	–	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–
	コクシジオイデス症	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	3	8
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	–
	デング熱	–	–	1	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	–	日本紅斑熱	–	15	19
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	1	48	58
	レプトスピラ症	–	2	1	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	7	8	ウイルス性肝炎	–	1	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	10	20
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	–	–	2	急性脳炎	1	12	14	クリプトスポリジウム症	–	–	–
	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	13	21	後天性免疫不全症候群	–	8	9
	ジアルジア症	–	–	–	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	9	9	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	46	55	水痘（入院例に限る。）	–	14	6	先天性風しん症候群	–	–	–
	多剤耐性緑膿菌感染症	–	1	–	梅毒	2	144	253	播種性クリプトコックス症	–	1	3
	破傷風	–	2	–	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	–	–	–	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	–	–
	百日咳	–	99	2148	風しん	–	–	–	麻しん	–	–	5
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–		–	–	–		–	–	–

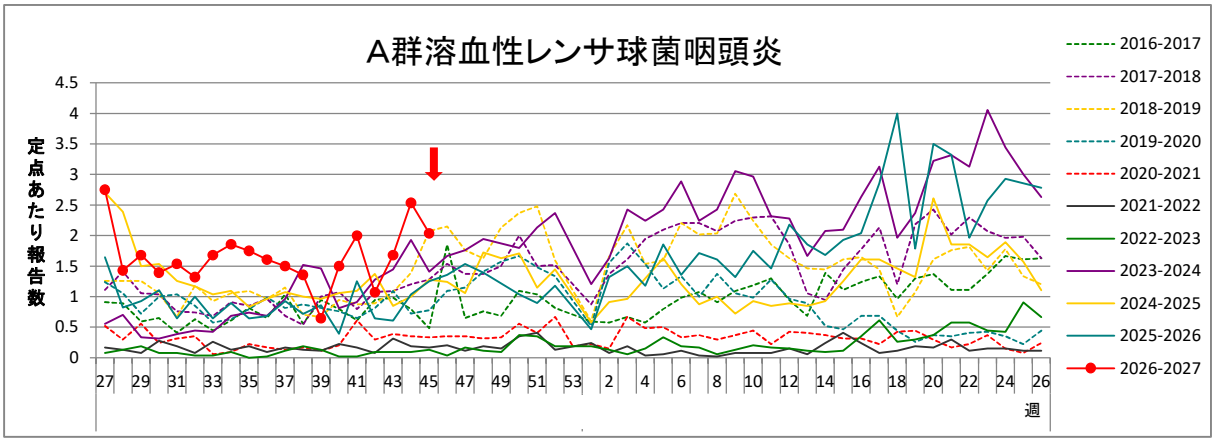

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

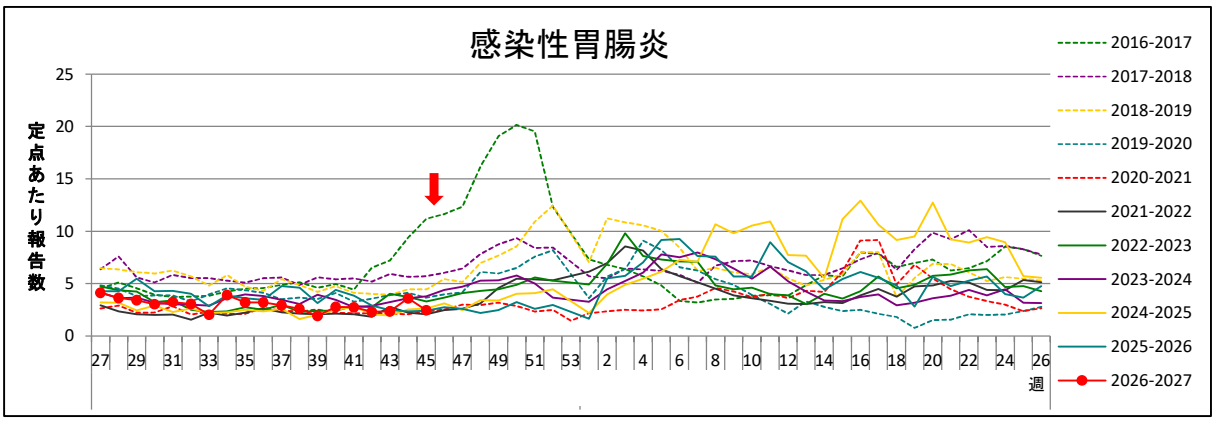

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)
定点あたり報告数
週
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

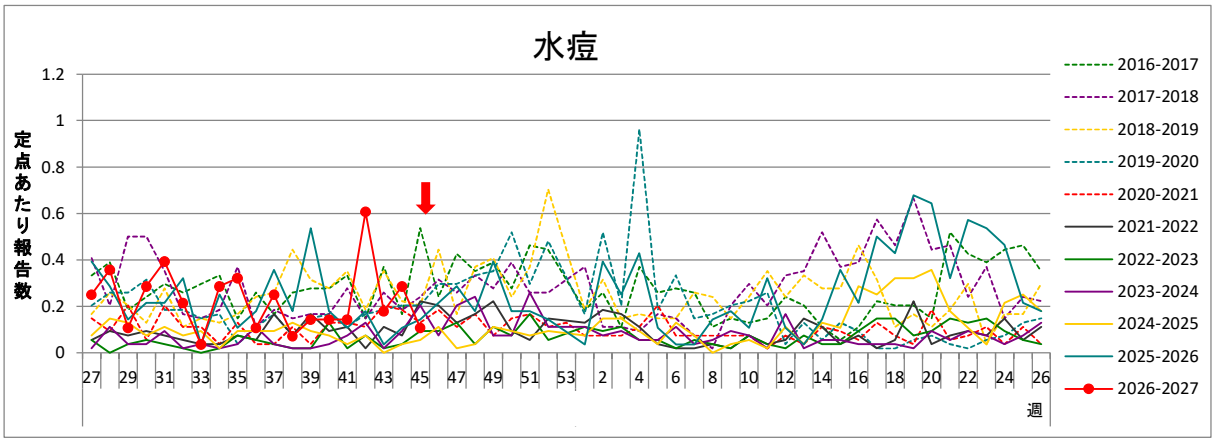

急性呼吸器感染症
定点あたり報告数
週
2024-2025
2025-2026
2026-2027

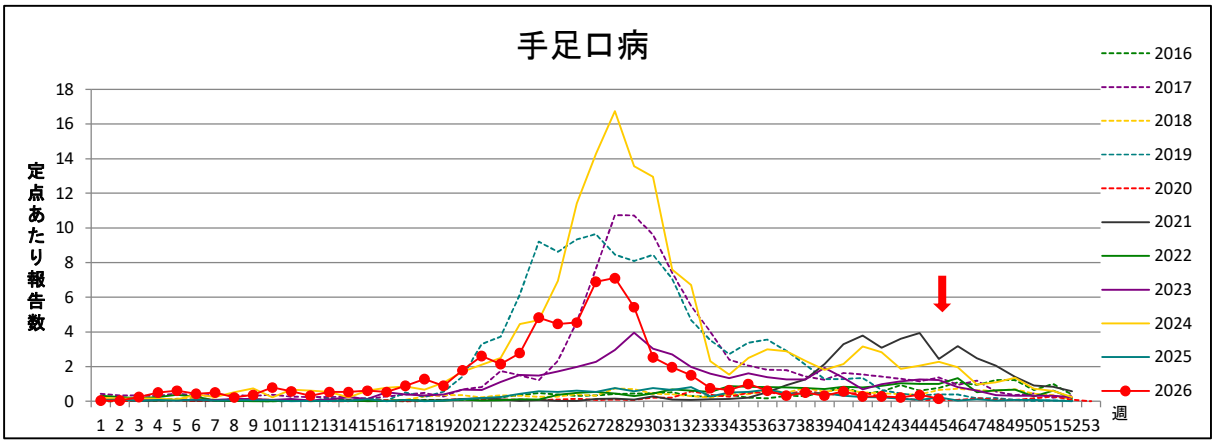

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

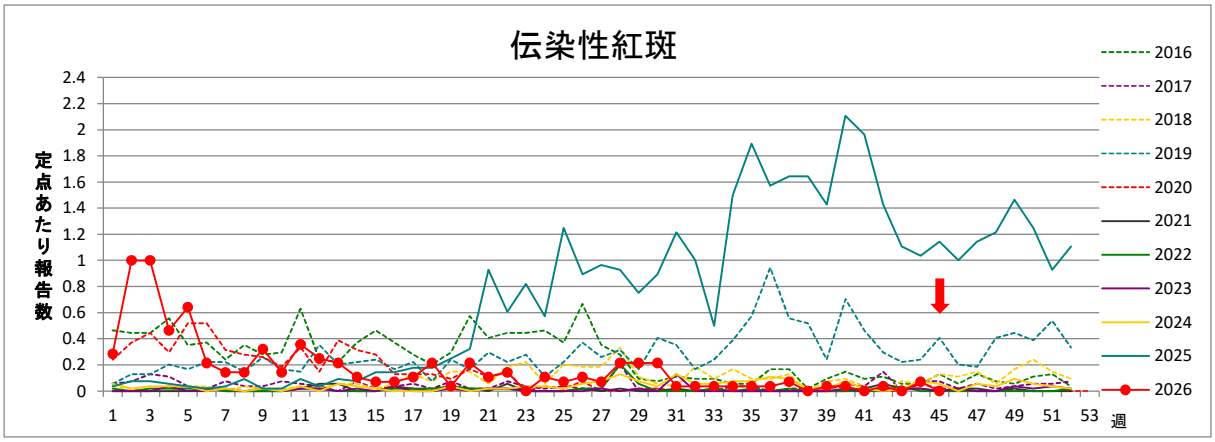

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

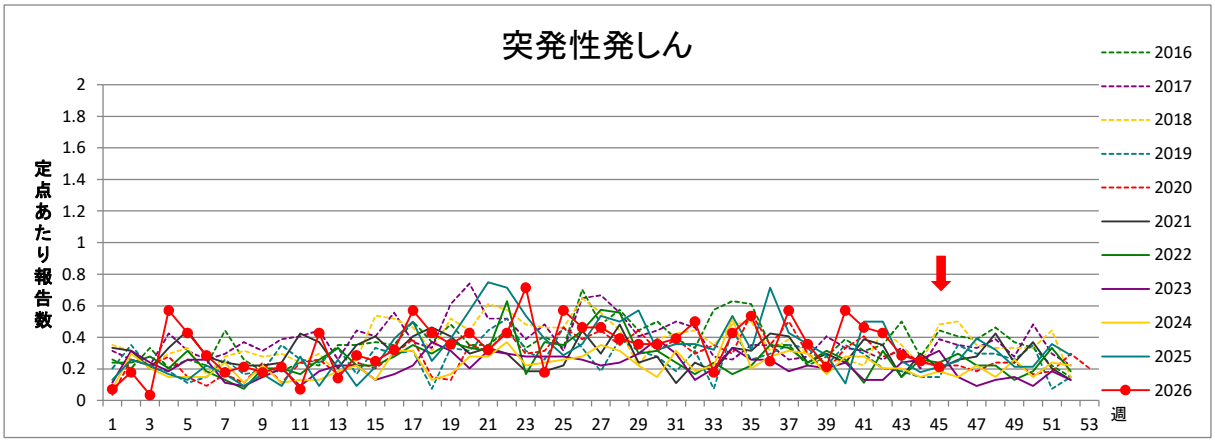

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
4.5
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

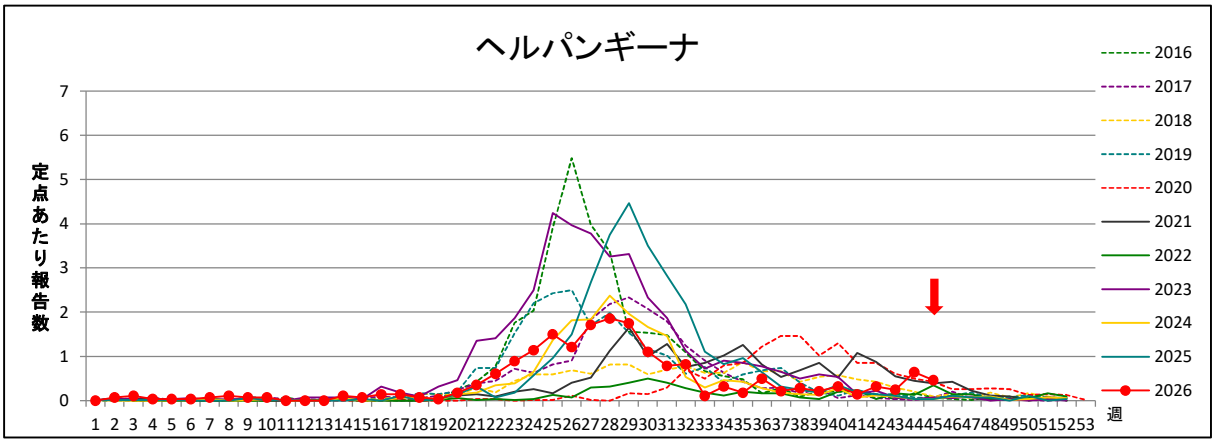

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
25
20
15
10
5
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

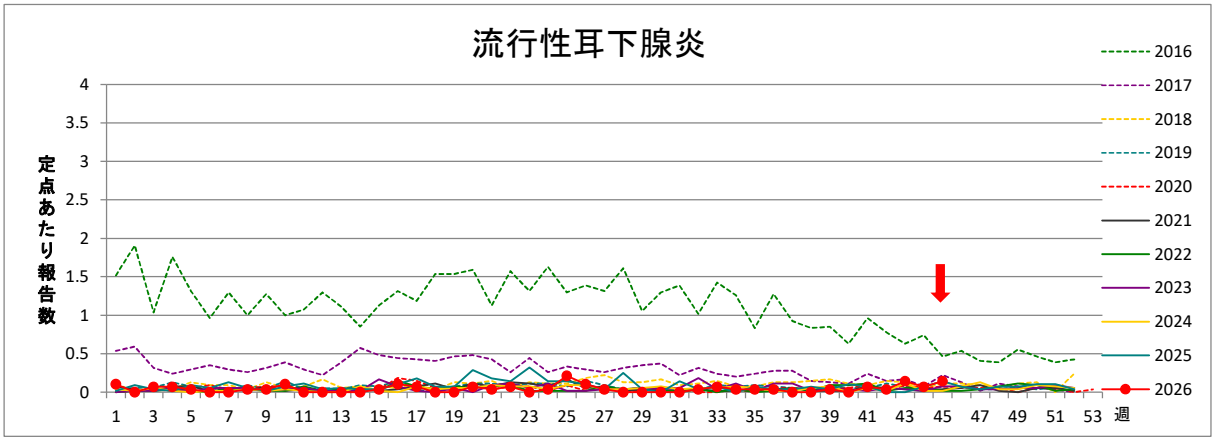

水痘
定点あたり報告数
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

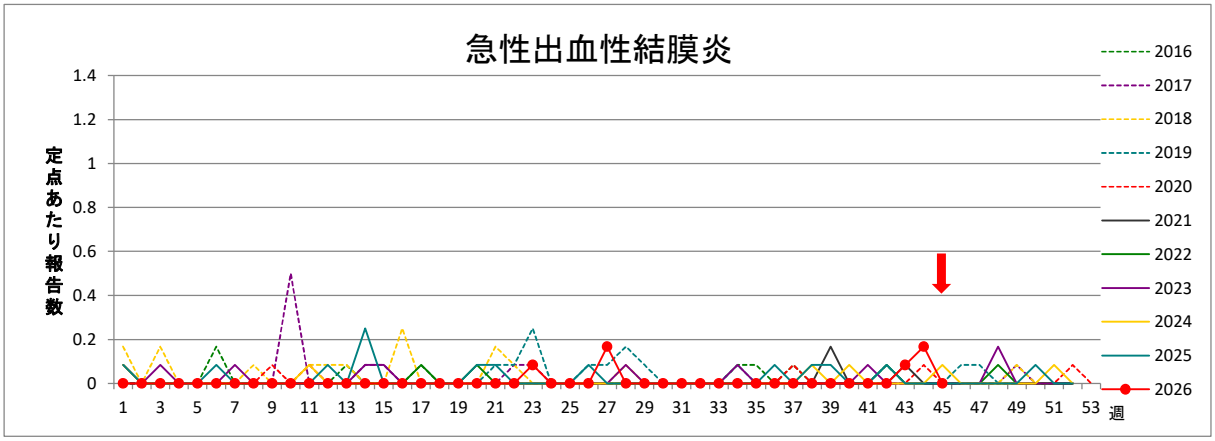

手足口病
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

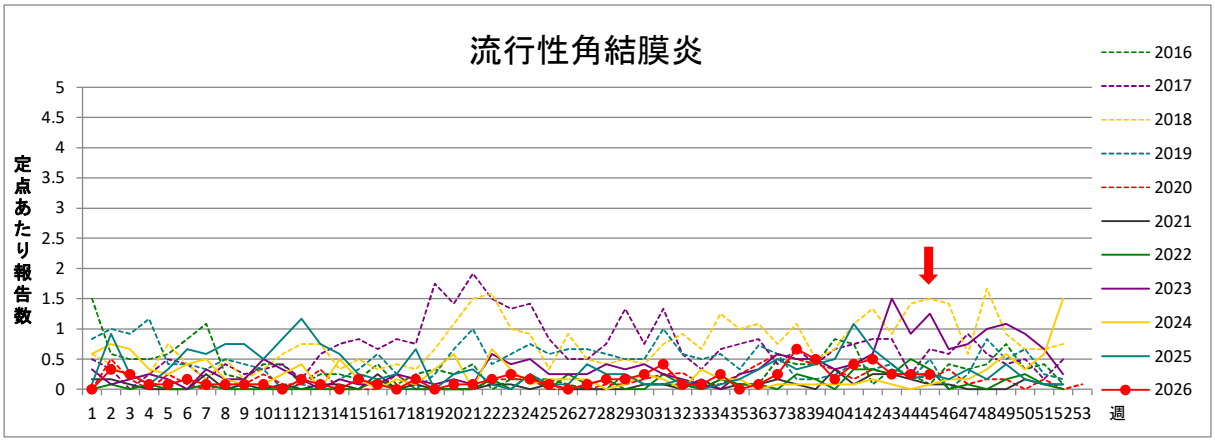

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

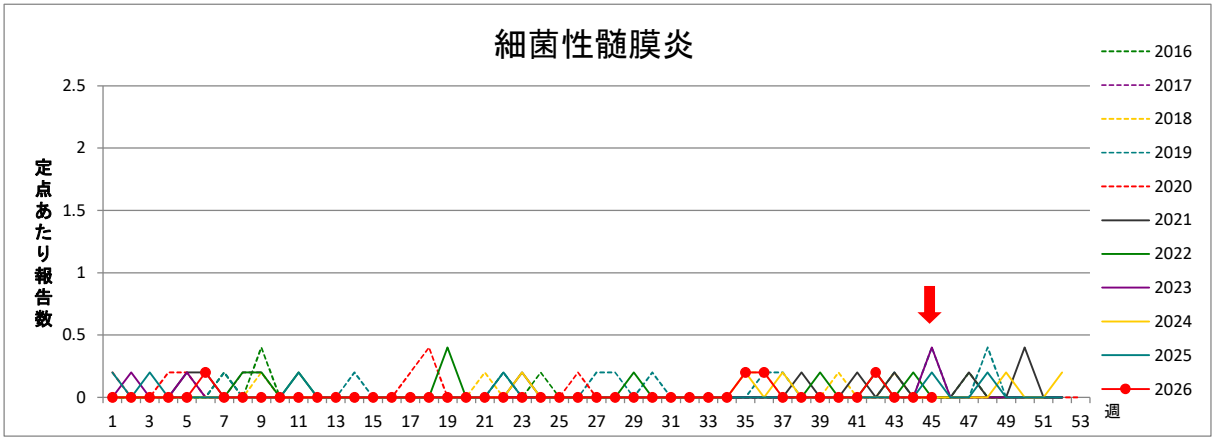

突発性発しん
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

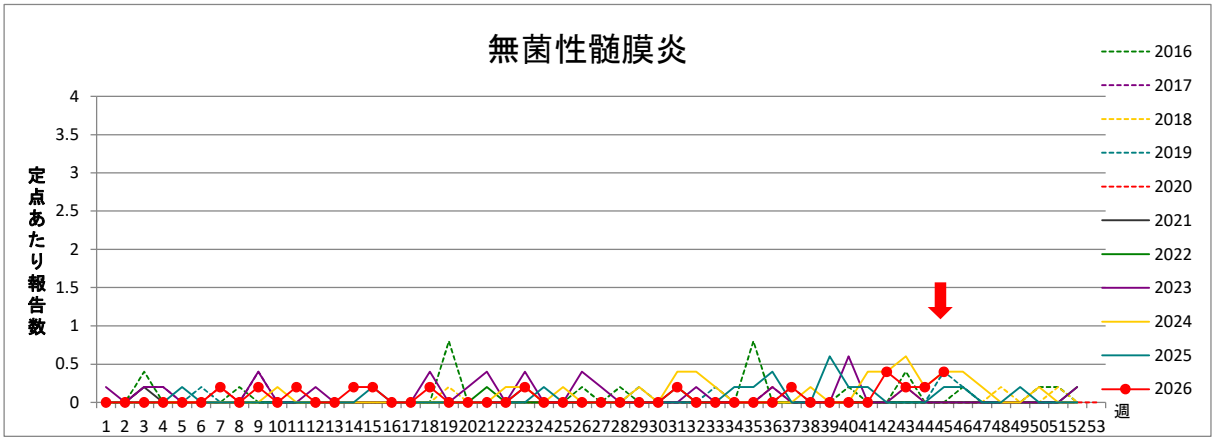

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

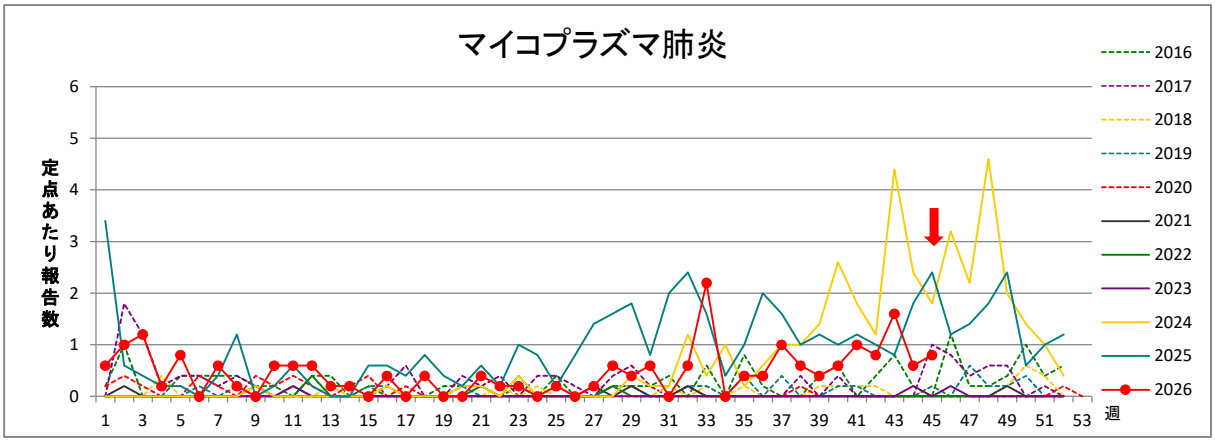

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

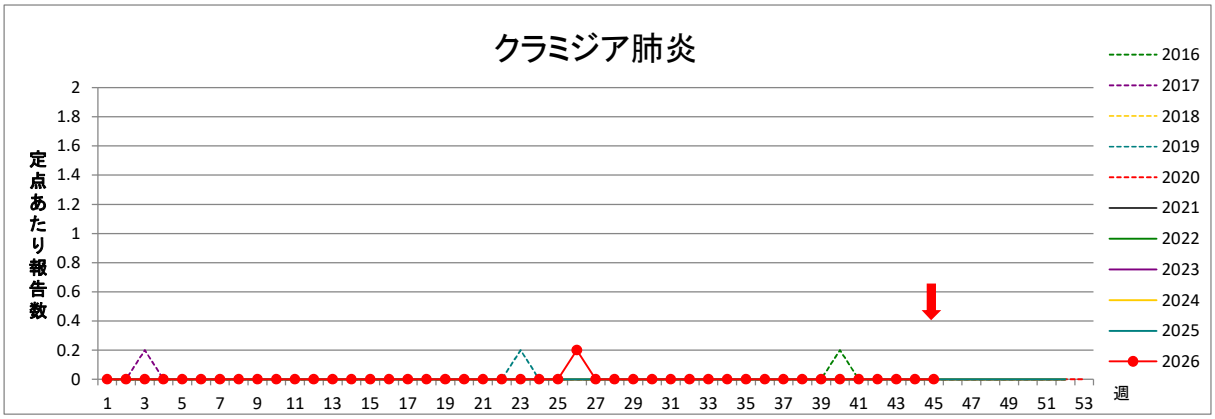

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

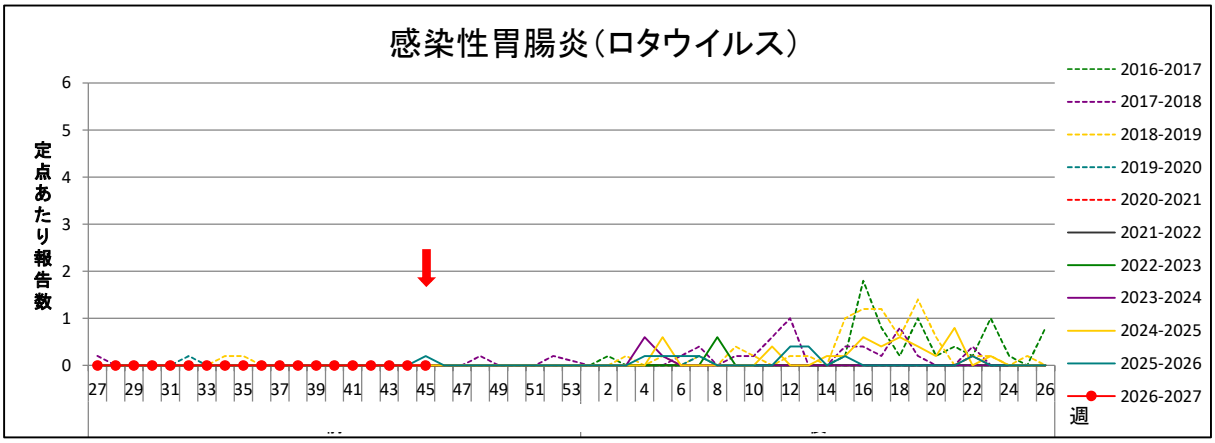

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027